

イギリス・ウィークリーレポート

(くりっく株365: FTSE100 証拠金取引)

FTSE100証拠金取引は、「FTSE100」の数値(円換算前の原数値)をもとにした価格(マーケットメーカーが提供する価格)により取引されます。「FTSE100」の数値×100円を売買単位(1枚)とし、円建てで取引が可能です。



株価指数FTSE100の特徴

株式会社DZHフィナンシャルリサーチ
シニア・アナリスト 野口文高



このレポートでは...

1. FTSE100には、米国株と高い相関があります。
⇒ 1995年から2013年11月6日までの期間について、FTSE100と米国株の代表的な株価指数であるS&P500の相関係数を計算すると0.9287になります。
2. FTSE100の値動きは、米国株と比べて小さな傾向があります。
⇒ 米国株が上昇する局面と下落する局面のいずれにおいても、FTSE100は米国株と比べて小幅の上昇ないし下落に留まっています。
3. 配当利回りが高いことも、FTSE100に安定感を与えています。
⇒ 値動きが大きくない代わりに配当利回りが高いことも特徴のひとつで、FTSE100の利回りは東証REIT指数の利回りよりも高くなっています。
4. 利回りだけでなく、配当頻度が高いこともFTSE100の特徴です。
⇒ 「FTSE100証拠金取引」では、2013年11月6日までの1年間について配当を受け取ることのできる日が253取引日のうち50取引日でした。

[取引対象株価指数]

FTSE100

「FTSE100」は、ロンドン証券取引所に上場する株式銘柄のうち、最も時価総額が大きく流動性の高い優良企業100銘柄で構成されています。



FTSE100には、米国株と高い相関があります

世界各国の株式相場は、米国株の影響を受けて動く傾向があります。(図表1)はFTSE100と米国株の代表的な株価指数であるS&P500について、1995年以降の値動きと1999年から2000年と2007年の高値(終値ベース)及び直近11月6日の終値を示したものです。FTSE100は、S&P500の上昇局面と下落局面で同じように動いていますが、最近ではS&P500が過去の高値を超えて最高値を更新しているのに対して、FTSE100はまだ過去の高値に届いていません。この図表に示す期間について、FTSE100とS&P500の相関係数を計算すると0.9287になります。

(図表1) FTSE100とS&P500の値動き比較

(1995年1月2日～2013年11月6日)



	FTSE100	S&P500
1999-2000年高値	6,930.20	1,527.46
2007年高値	6,732.40	1,565.15
2013年11月6日	6,741.69	1,770.49

出所: ブルームバーグのデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートは当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。

Copyright 株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

本レポートは、本取引所が株式会社DZHフィナンシャルリサーチから提供を受けて公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は株式会社DZHフィナンシャルリサーチに帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。株式会社東京金融取引所



金融取

東京金融取引所

* 本商品は預託すべき証拠金の額に比して取引金額が大きいいため、相場次第で差し入れた証拠金以上の損失が発生することがあります。



FTSE100の値動きは、米国株と比べて小さな傾向があります

このようにFTSE100には米国株と高い相関がありますが、FTSE100の値動きは米国株と比べて小さな傾向があります。(図表2)は1995年以降の米国株(S&P500)の上昇局面と下落局面について、S&P500とFTSE100の騰落率を比較したものです。米国株が上昇する局面と下落する局面のいずれにおいても、FTSE100は米国株と比べて小幅の上昇ないし下落に留まっていることがわかります。

(図表2) 米国株の上昇/下落局面におけるS&P500とFTSE100の騰落率比較

	S&P500	FTSE100	期間
上昇局面①	232.6%	119.8%	1995年1月2日～ 2000年3月24日*
下落局面①	-49.1%	-44.5%	2000年3月24日*～ 2002年10月9日*
上昇局面②	101.5%	76.8%	2002年10月9日*～ 2007年10月9日*
下落局面②	-56.8%	-46.5%	2007年10月9日*～ 2009年3月9日*
上昇局面③	161.7%	90.3%	2009年3月9日*～ 2013年11月6日

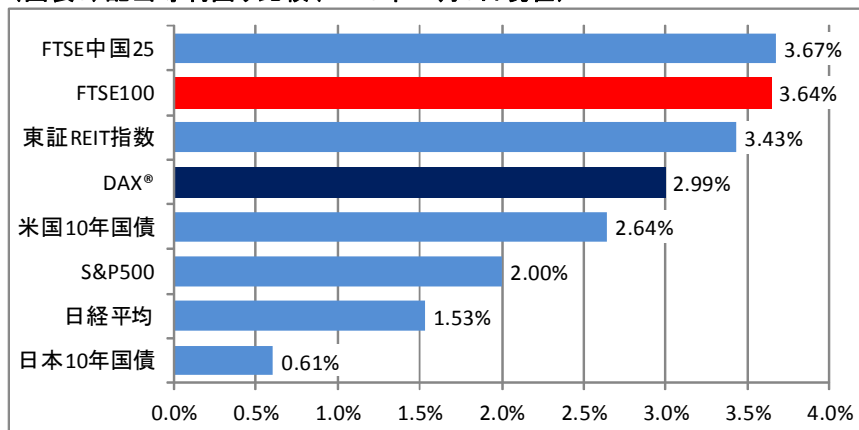
* S&P500が高値/安値(終値ベース)を付けた日。
出所: ブルームバーグのデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。



配当利回りが高いことも、FTSE100に安定感を与えています

一方、主要株価指数の配当利回りや国債の利回りと比較すると、FTSE100の配当利回りが相対的に高いことがわかります。(図表3)はくりっく株365の取引対象株価指数であるFTSE100など4つの株価指数とS&P500、日米国債利回り、東証REIT(不動産投資信託)指数の利回りを比較したものです。FTSE100の配当利回りは3.64%で、日米の国債や東証REIT指数の利回りよりも高いことがわかります。このように値動きが大きい代わりに、配当利回りが高いことがFTSE100の特徴のひとつです。

(図表3) 配当等利回り比較(2013年11月6日現在)



出所: ブルームバーグのデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。



利回りだけでなく、配当頻度が高いこともFTSE100の特徴です

利回りだけでなく、配当頻度が高いこともFTSE100の特徴のひとつです。(図表4)は2012年11月7日から2013年11月6日までの1年間について、くりっく株365「FTSE100証拠金取引」の毎日の配当利回りと清算価格を示したものです。くりっく株365では、配当の権利付最終日の終了時点で買いポジションがあれば配当相当額を受け取ることができますが、「FTSE100証拠金取引」ではこの配当を受け取ることができる日が上記1年間の253取引日のうち50取引日ありました。「日経225証拠金取引」の260取引日のうち13取引日と比べると、FTSE100の配当収入機会がはるかに多いことがわかります。

(図表4) くりっく株365「FTSE100証拠金取引」の配当利回りと当日清算価格
(2012年11月7日～2013年11月6日)



* 権利付最終日について、[配当相当額] ÷ [当日清算価格 × 100]
出所: 東京金融取引所のデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートは当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートを原因とするお客様の直接的あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright 株式会社DZHフィナンシャルリサーチ
本レポートは、本取引所が株式会社DZHフィナンシャルリサーチから提供を受けて公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は株式会社DZHフィナンシャルリサーチに帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。 株式会社東京金融取引所

* 本商品は預託すべき証拠金の額に比して取引金額が大きい場合、相場次第で差し入れた証拠金以上の損失が発生することがあります。